

伊豆半島南端から得られた絶滅危惧種のイドミミズハゼ

平嶋健太郎

Author & Article Info

和歌山県立自然博物館（海南市）
 hirashima_k0001@pref.wakayama.lg.jp

Received 27 October 2021
 Revised 02 November 2021
 Accepted 03 November 2021
 Published 04 November 2021
 DOI 10.34583/ichthy.14.0_10

Kentarou Hirashima. 2021. Record of *Luciogobius pallidus* Regan, 1940 from the Aono River, southern Izu Peninsula, Shizuoka Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 10–12.

Abstract

A single specimen of *Luciogobius pallidus* Regan 1940 was collected from estuary at the Aono River, southern Izu Peninsula, Shizuoka, Japan. In Shizuoka Prefecture, the species has been recorded only from the west coast of Suruga Bay. The present specimen represents the first record of the species from the Izu Peninsula.

ハゼ科ミミズハゼ属のイドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* Regan, 1940 は、国内では新潟県以南の日本海側と茨城県以南の太平洋側、国外では大韓民国の済州島から報告されている（Kim, 2012；明仁ほか, 2013；加納, 2016；川瀬, 2019；山下ほか, 2021）。本種は主に地下水や伏流水を利用し、両側回遊性の生活史を送っていると考えられる（平嶋・高橋, 2008）。今回、伊豆半島の最南端に位置する南伊豆町下賀茂の青野川河口の感潮域より、本種を確認できたので報告する。

材料と方法

2021年2月21日に、静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂の青野川（流程 17.2 km）にある堰（河口より約 2.8 km 上流）の下流の感潮域で、スコップを用いて大潮干潮時に川原や中洲の砂礫を掘り起こすことで採集調査をおこなった。採集した個体は生かしたまま和歌山県立自然博物館へ持ち帰り、中坊・中山（2013）に従って体の各部位の計測と観察、

撮影などを行い、種の同定を行った後に 10% ホルマリンで固定して液浸標本とした。同定は明仁ほか（2013）に従い、計測は電子ノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。さらに軟エックス線を用いた撮影を行い、脊椎骨等の観察を行った。標本は、和歌山県立自然博物館の魚類登録標本（WMNH-PIS）として保管した。

Luciogobius pallidus Regan, 1940

イドミミズハゼ

(Fig. 1)

標本 WMNH-PIS 12534, 全長 41.3 mm, 標準体長 36.4 mm, 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂 青野川河口堰下流, 2021年2月21日, シャベル, 平嶋健太郎。

記載 体は円筒形で細長く、体は鱗を欠く。頭部は縦扁し、左右の眼窩後方の筋肉がそれぞれやや盛り上がる。下顎は上顎よりもやや突出し、口裂は大きく、眼窩後縁を越える。眼は頭部の前方 1/3 程に位置し、生時には外部から確認できるが、ホルマリン固定後は皮膚が白濁して眼が皮下に埋没していることが明確になる。背鰭は 1 基（体の後方に位置する第 2 背鰭）で 1 棘 10 軟条。第 2 背鰭の起部よりわずかに後方に臀鰭起部が位置する。臀鰭は肛門の直後に起部があり、1 棘 10 軟条。胸鰭は 13 軟条で、遊離軟条をもたない団扇状。腹鰭は 1 棘 5 軟条で、左右の鰭が癒合し、吸盤状になる。尾鰭は円形で、橙色からやや黄色味を帯びる。体高は低く、標準体長の 10% 以下であり、生時の体色は、橙色から朱色を帯びたピンク色で、腹面は白色で内臓器官がやや透けて見える。

脊椎骨数は 19 + 19 = 38 で、頭長 7.6 mm（標準体長に対する割合 20.9%）、肛門前長 23.9 mm（65.7%）、背鰭前長 24.0 mm（65.9%）、尾柄高 3.0 mm（8.2%）であった。

採集環境 採集場所は、青野川の潮止めの堰堤（河口より約 2.8 km 上流）の下流左岸側に干潮時に現れた砂州であり、砂礫の割合が非常に多く、やや泥も堆積していた。採集場所は感潮域にあたり、採集時は干潮時間であったため周辺は淡水であった。また、底質は砂礫の間隙が多く、



Aquarium photographs of *Luciogobius pallidus*, collected from the Aono River. A: WMNH-PIS 12534, 36.4 mm SL; B: juvenile (not registered), ca. 17 mm SL.

掘り返してもすぐに崩れて伏流した河川水が湧き出した。採集地以外は、礫よりも砂泥の割合が高く、底質を掘り返しても固く、伏流水も非常に少なかった。なお、同所から

ミミズハゼ *L. guttatus* Gill, 1859 も採集された (WMNH-PIS 12502)。

備考 今回得られた標本は、上述した頭部や眼の状態、

体高、背鰭と臀鰭の位置、脊椎骨数、および体色などの特徴から明仁ほか (2013) に従ってイドミミズハゼに同定された。さらに、総脊椎骨数、背鰭総軟条数、背鰭前長の標準体長に対する割合や汽水環境から採集されたことから、井藤ほか (2020) のイドミミズハゼ morphotype 1, 奥村ほか (2021), 井藤・乾 (2021), および山下ほか (2021) のイドミミズハゼ汽水型に一致した。イドミミズハゼは、新潟県以南の日本海側と茨城県以南の太平洋側の海岸や河口域、伏流水中から標本が得られており、西日本 (紀伊半島、四国や九州など) では比較的多く記録されているものの、各地域で希少種とみなされている (明仁ほか, 2013; 加納, 2016; 川瀬, 2019; 渋川ほか, 2019)。その例にもれず、本種は、「イドミミズハゼ類の1種」として静岡県版レッドリストの絶滅危惧 IA 類に指定されており (金川ほか, 2019), その記録は静岡県西部 (駿河湾西部) に限られる (渋川ほか, 2019)。したがって、伊豆半島 (静岡県東部) からの本種の標本に基づく報告は、静岡県における本種の東端かつ、南端記録となる。また、飼育中に記載個体に捕食されたものの、同河川から着底間もない本種の稚魚を1個体 (体長約 17 mm) 確認できた (Fig. 1B)。本種の静岡県内における再生産の可能性は今後の継続した調査によるさらなる知見が必要である。また、再生産していることが確かになった際は、上記のように県内のレッドリスト中にリストされていることから本種の保護・保全対策が進められることが望ましい。

謝 辞

本研究を進めるにあたって、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムの渋川浩一博士と株式会社環境アセスメントセンターの北原佳郎氏には静岡県におけるイドミミズハゼの有益な情報をいただいた。また、担当編集の藤原

恭司氏をはじめ、匿名の査読者には原稿に対してコメントをいただいた。さらに、採集に際して便宜いただいた南伊豆町下賀茂の「ペンションひだまり」のオーナーの平嶋裕二氏に感謝する。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 平嶋健太郎・高橋弘明. 2008. 和歌山県産イドミミズハゼの水槽内産卵および初期発育. 魚類学雑誌, 55: 121–126. [URL](#)
- 井藤大樹・乾 隆帝. 2021. 香川県小豆島から採集されたイドミミズハゼ. 南紀生物, 63: 42–45.
- 井藤大樹・乾 隆帝・佐藤陽一. 2020. 徳島県立博物館所蔵標本からみた瀬戸内海における希少魚イドミミズハゼの分布と形態. 地域自然史と保全, 42: 101–112.
- 金川直幸・板井隆彦・渋川浩一. 2019. イドミミズハゼ類の1種, p. 186. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 (編) まもりたい静岡県の野生生物 2019 静岡県版レッドデータブック (動物編). 羽衣出版, 静岡. [URL](#)
- 加納光樹. 2016. イドミミズハゼ, p. 118. 茨城県生活環境部環境生活課 (編) 茨城県における絶滅の恐れのある野生生物 (茨城県版レッドデータブック) 動物編. 茨城県生活環境部環境生活課, 水戸. [URL](#)
- 川瀬成吾. 2019. イドミミズハゼ, p. 560. 細谷和海 (編) 増補改訂日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Kim, B. J. 2012. New record of a rare hypogean gobiid, *Luciogobius pallidus* from Jeju Island, Korea. Korean Journal of Ichthyology, 24: 306–310. [URL](#)
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説 第3版, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 奥村大輝・井藤大樹・乾 隆帝. 2021. 徳島県南部の3河川で得られたイドミミズハゼ (スズキ目: ハゼ科) の記録. 四国自然史科学研究, 14: 12–18. [URL](#)
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29–96. [URL](#)
- 山下龍之丞・菅 駿之介・碧木健人・山川宇宙. 2021. 石川県および兵庫県の本海沿岸から得られたイドミミズハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 13–20. [URL](#)